

江戸時代には、暮らしに役立つ知識をまとめたさまざまな「重宝記」が刊行されました。多くは家事や文章、詩などについてのものですが、蘭学について解説したものもあったのです。

天保6年（1835）に刊行された『蘭学重宝記』は、西暦と和暦の対照表やオランダの地図、曜日や星座など、蘭学を学ぶうえで便利な知識が集められています。

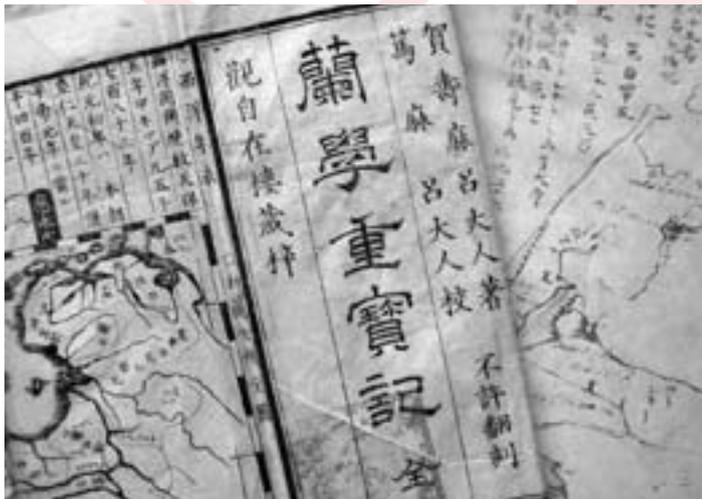
この重宝記の著者を見ると賀寿麻呂大人、校閲は篤麻呂大人と、一風変わった名前が記されています。実はこの賀寿麻呂大人は、津山藩の洋学者・宇田川榕菴（ようあん）なのです。榕菴の榕の字は、クワ科の熱帯樹ガジュマルのことなので、それに漢字を当てて「賀寿麻呂」としたのでした。版元になっている「観自在楼」とは、榕菴の書齋「観自在菩薩楼」の略称で、榕菴の原稿にはこの重宝記の下書きが残されています。

一方、校正を行った篤麻呂大人ですが、シーボルトではないかと思われま。シーボルトの名前は「西乙福児篤」や「斯勃慮篤」など多くの当て字がありますが、榕菴の記録にも「斯伊勃慮篤」とあります。「麻呂大人」は「賀寿麻呂大人」と合わせたもので、末尾の「篤」一文字を用いてシーボルトを表したと考えられます。

どうして榕菴は、名前を伏せてこの書を刊行したのでしょうか。文政9年（1826）、榕菴は江戸に来て親しく交流したシーボルトのことを「知識が豊かで多くの物事に通じ、交際している」と得ることが多い」と尊敬を込めて書き残しています。

洋学博覧漫筆

～『蘭学重宝記』の秘密～



▲『蘭学重宝記』（津山洋学資料館寄託資料）のオランダ地図と榕菴自筆原稿のオランダ地図（左）

※透かしの家紋は右が眞作家、左が宇田川家のもの

その2年後、シーボルトは帰国する際に日本地獄などの禁制品を持ち出そうとしたことが露見して国外追放となり、関与した洋学者ら50人余りも処罰されてしまいました。これが有名なシーボルト事件です。

7年前の事件とはいえ、シーボルトの名前を入れた本を刊行すると、どんな危険がふりかかるかわりません。しかし、榕菴は敬愛するシーボルトと連名の本をどうしても刊行したかったのでしよう。この不思議な名前には、そう考えた榕菴の秘策がうかがえるのです。

6月中のひとの動き

人口 108,964人(前月比+8)
 男 51,942人(同+20)
 女 57,022人(同△12)
 世帯 43,798世帯(同+24)

転入 243人 転出 241人
 出生 105人 死亡 99人

(7月1日現在)

広報つやまは、環境保護のため再生紙と大豆油インキを使用しています。読み終えた後はリサイクル(雑誌)にご協力ください



つ・ぶ・や・き

編集室

水難事故などが多い季節。何の心構えもなく現場に居合わせたら、戸惑ってしまうのは当たり前。講習会で練習しておけば、自信が付きま。ダミー人形で人工呼吸や胸骨圧迫、AEDの使用を実践さながらに体験・訓練できますよ。(2)

夏はプール！小学生の時、テレビの再放送で見た「トビウオターン」に憧れて、できるはずなのに毎日練習(笑)。夏休み明けの校内日焼けコンテスト(今時こんなのないよね…)で見事優勝したのを思い出しました。(和)

14ページに掲載した「津山ホルモンうどんスタンプラリー」。店だけでなく観光施設にも訪れてもらうようになっています。「観光も含めて津山に長時間滞在してもらいたい」という仕掛け作りの一歩が既に始まっています。(&)



編集・発行 (毎月10日発行)
 津山市総合企画部市長公室(市役所3階)
 〒708-8501 岡山県津山市山北520番地
 ☎0868-23-2111(代) ☎0868-32-2152
 Eメール kouhou@city.tsuyama.okayama.jp

☆広報つやまはホームページで閲覧できます。
<http://www.city.tsuyama.okayama.jp/>

